

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1  
 世界貿易センタービル6階 (社)日本貿易会内  
 特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)  
 Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979  
 e-mail : abic@jftc.or.jp http://www.jftc.or.jp/abictop.html

## 活動レポート目次

中小企業支援	4	海外での活動	10
自治体への国際化支援	7	教育	11
NGOへの協力	8	留学生支援	15

## 第4回理事会・第3回通常総会および第5回理事会を開催 定款の一部変更、理事長、常務理事・事務局長の交代等

5月30日、第4回理事会を日本貿易会会議室にて開催。宮原会長が議長を務め、2002年度事業報告および収支決算、2003年度事業計画および収支予算、役員の異動、正会員の加入が審議され、承認されました。

引き続き行われた第3回通常総会では、定款の一部変更について審議され、承認されました。今回の定款を一部変更したポイントは、①役員の変更・新設（副会長を理事兼務としない。名誉会長、顧問、参与の新設）、②通常総会の開催期日の変更（6月に限定しない）の2点です。

なお、役員の異動では、常務理事・事務局長の交代があり、2000年5月発足以来、3年間、ABIC活動の拡大に尽力した宮内雄史事務局長が退任（三菱商事に帰任）し、今後は参与としてABICの活動を支援することになりました。後任は野津浩（丸紅から出向）が就任しました。

正会員（個人）として小島順彦氏（三井商事㈱副社長）が入会されました。

### 2003年度 収支予算 (単位：千円)

科 目	予算額	前年度実績
I 収 入 の 部		
(1) 会 費 収 入	6,000	5,820
(2) 受託事業収入		
日本貿易会	18,300	17,800
そ の 他	6,840	8,630
(3) 雜 収 入		126
前 期 總 越 金	7,347	4,540
収入合計	38,487	36,916
II 支 出 の 部		
(1) 一 般 管 理 費	2,050	2,225
(2) 受託事業費	28,780	25,919
(3) 器具備品等		1,425
支出合計	30,830	29,569
次 期 總 越 金	7,657	7,347



第4回理事会



吉田靖男新理事長



野津浩新常務理事・事務局長

## 役員等名簿

(敬称略・氏名五十音順)

会 長	宮原 賢次	住友商事(株)	会長
副 会 長	槍田 松螢 勝俣 宣夫 佐々木幹夫 西村 英俊 丹羽宇一郎	三井物産(株) 丸 紅 (株) 三菱商事(株) 日商岩井(株) 伊藤忠商事(株)	社長 社長 社長 社長 社長
理 事 長	吉田 靖男	(社)日本貿易会	常務理事
常務理事	野津 浩	(社)日本貿易会	社会貢献グループ部長
理 事	東 直樹 稻垣 恒夫 今井 明良 杉浦 康之 寺島 實郎 西川 徹 日野 憲章 姫野 寛文 松村 滋弥	住友商事(株) (社)日本貿易会 丸 紅 (株) 三菱商事(株) 三井物産(株) 住友商事(株) (株)トーメン 日商岩井(株) 伊藤忠マネジメントコンサルティング(株) 伊藤忠ビジネス戦略アドバイス	市場業務部長 理事・企画グループ部長 業務部担当部長 国際戦略研究所長 執行役員 市場業務部次長 人事総務部長 人事総務部長 業務部長
監 事	高梨 圭介	(社)日本貿易会	専務理事
顧 問	池上 久雄	前 国際社会貢献センター	理事長
参 与	宮内 雄史	前 国際社会貢献センター	常務理事・事務局長

6月30日、第5回理事会を開催。理事長の交代が審議され、承認されました。6月30日付でABIC発足以来、ABICの発展に多大な貢献をした池上理事長が退任、後任には、7月1日付で吉田靖男（前（株）三井物産戦略研究所 社長）が就任しました。

「2002年度事業報告・収支決算」、「2003年度事業計画・収支予算」、「役員名簿」、「正会員名簿」につきましては、当センターのホームページコンテンツ「組織の概要」（URL：[http://www.jftc.or.jp/abic\\_outline/outline.html](http://www.jftc.or.jp/abic_outline/outline.html)）の当該項目をご参照ください。

## 2003年度 事業計画

分野	主要事業	重点活動内容	主な新規取り組みと検討事項
政府の経済援助関連	ODA関連人材推薦、応募 人材育成セミナー等への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家新規案件のフォロー</li> <li>専門家候補人材の整備</li> <li>JICA・SVグループの組成・応募</li> <li>同 新規案件発掘活動の展開</li> <li>その他AOTS、JETRO等への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らNGO活動を行い、NGO支援の助成を受けるプロジェクトの可能性検討</li> <li>○途上国支援と中小企業支援の活動・自治体への協力の連携を検討</li> </ul>
海外への活動	NGO	NGOへの人材推薦 NGOの活動強化への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対NGOへのPR展開</li> <li>●個別案件のフォロー</li> </ul>
	中小企業	中小企業の海外進出支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地方自治体と組んだ中小企業海外進出スキームの拡充と具体案の実行</li> <li>●中小企業サポートの人材プール・取り組み体制整備</li> </ul>
国内での国際化	自治体等	自治体等の国際化活動への協力	(中小企業支援と協調)
	外国企業	外国企業の日本進出サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大使館および関連組織との関係拡充</li> <li>●地方自治体との協力</li> <li>●途上国産品の輸入開拓（経済援助との関連付け）</li> </ul>
教育	大学等	大学等での講座実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規大学、講座の一層の拡大</li> <li>●講師陣の充実と能力向上</li> <li>●他の活動との連携、複合的活動の取り組み</li> </ul>
	小・中・高校	小・中・高校への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小・中・高校での取り組み拡大</li> <li>●講師陣の充実</li> <li>●対外的PR</li> </ul>
一般ボランティア	留学生支援	留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学村での日本語広場・日本文化教室・文化交流活動・ホームビギット等の展開</li> <li>●スキーツアー等交流プログラムの推進</li> <li>●大学村以外への活動の拡大</li> </ul>
スポーツ大会他			<ul style="list-style-type: none"> <li>●関西デスク等でのNPOとの連携</li> </ul>
活動会員向け	セミナー・報告会	●海外活動報告他会員向けセミナーの実施	
	懇談会等	●活動会員の情報交換機会の実施	
	情報連絡	●インフォメーションレターの発行	
広報	広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マスコミへの積極的対応</li> <li>●ホームページの充実</li> <li>●カタログ、ABIC PLAZAの充実</li> </ul>	
事務局	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コーディネーター体制の拡充</li> <li>●関西デスクの運営体制の整備</li> </ul>	
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会員管理システムの整備</li> <li>●会計システムの整備</li> <li>●諸契約、規則・規定の整備</li> <li>●安全対策の整備</li> <li>●財源拡大の検討</li> </ul>	

## 2002年度 事業報告

### 1. 国際社会貢献に係る人材の紹介・推薦事業

分野	主要事業	2002年度 事業計画内容	2002年度の実施状況
政府の経済援助関連	ODA関連人材推薦、応募	ODA関連専門家派遣への人材推薦、シニア海外ボランティア・グループ派遣への応募、人材育成セミナーへの講師派遣	●JICAの専門家として、パラグアイの商工政策アドバイザー、パキスタンの中小企業振興アドバイザー、サウジアラビアの輸出振興アドバイザーにそれぞれ採用、派遣された。 ●国際協力事業団（JICA）のシニア海外ボランティア：一般公募案件で会員への応募案内、派遣決定者との打ち合わせを行った。インドネシア、アルゼンチン、シリア、パラオ等に9人が派遣された。タイ、インドネシア、パキスタンでの案件発掘でJICAへの協力を進めた。 ●財海外技術者研修協会（AOTS）が主催する人材育成セミナーに講師を派遣した。カンボジア、シンガポール、バンコク（2回×2名）。日本経団連主催のベトナムでのセミナーに講師2名を派遣した。 ●JETROの派遣するナイジェリア投資ミッションへの同行、エジプトでのリスクマネジメントセミナー講師派遣を行った。タイ、インドネシアでの案件発掘のため現地へ出張した。
	日本国内での人材育成研修への講師派遣		●日本国内で実施されたAOTS、財海外職業訓練協会（OVTA）、世界貿易センター、財太平洋人材交流センター、財日本国際協力センター（JICE）の人材育成セミナーに講師を派遣した。
海外での活動	NGOの活動強化	マネジメント、事業推進等NGOで必要とする人材の推薦	●地雷除去NGO 人道目的地雷除去支援の会（JAHDS）の東京事務所に非常勤事務所スタッフを1人紹介した。 ●フランスの医療NGOメドゥサン・デュ・モンド・ジャパンの東京事務所スタッフを1人紹介した。 ●世界食糧計画（WFP）日本事務所をサポートする国連WFP協会のシニア・マネージャーに会員が就任。
	中小企業の海外進出	海外へ進出する中小企業への人材推薦	●中小企業関連では長期非常勤の業務が6件決まった。 ●中小企業への短期、スポットは5件。 ●自治体に協力しての中小企業支援の態勢が進展した。
国内での国際化	地方自治体の国際化	自治体の中小企業海外展開支援、外資系企業誘致等国際化関連事業に必要な人材の推薦、講演、研修等非常勤・スポット的活動への人材推薦・派遣	●愛知県産業貿易振興会外資企業誘致アドバイザー、中小企業総合事業団・大阪中国ビジネスアドバイザーに非常勤で就任。長野県中小企業振興公社海外取引アドバイザーの任期が延長された。 ●千葉県産業振興センターとは海外ビジネス実務支援業務契約を締結した。県内の団体、個別企業への人材協力の他、県内企業のニーズ発掘調査を行った。 ●大阪産業振興機構の東大阪の「ものづくり拠点」で活動するコーディネーターとして2人が採用された。 ●千葉県、神奈川県、埼玉県、岐阜県等の関係で、セミナー講師を派遣した。 ●東京都中小企業振興公社が募集したビジネスナビゲーターに9名が採用された。
	外国企業の日本進出	外国企業の日本での活動への人材推薦	●外資系企業の非常勤ビジネスアソシエイツに3人が就任した。 ●来日展覧会出展外国企業へのビジネス通訳が4件実現。 ●来日外国企業への商談通訳アテンドが3件実現した。 ●アメリカ大使館よりマーケット調査を受託した。
教育	国際化教育	大学、オープンカレッジでの講座開設、専門学校への講師推薦、中等教育等での国際化教育への講師派遣、外国人生徒サポート	●横浜商科大学、創価大学、信州大学、北陸大学、関西学院大学等16大学に129コマ83人の講師を派遣。 ●明治リバティアカデミー、早稲田大学EC、東海大学EC等、9ヵ所61コマ40人が講師として参加した。 ●2003年度の大学講座拡大のため春先より取り組んだ結果、22大学・学部で417コマ、講師数170人が決定した。 EC等についても60コマ30人が既に決定した。 ●小中高校への国際理解教育講師派遣では、10校に32人を派遣した。 ●また2003年度より国際学科新設の横浜商業高校から半年間12講座の国際理解教育授業計画を委託され、講師12人を派遣する事が既に決定。 ●その他、国際貢献塾（民間の人材育成機関）への講師派遣、帰国子女への日本語補習、専門学校での講師などを行った。
一般ボランティア	留学生支援	国際研究交流大学村での留学生支援活動、ホームステイのアレンジ等	●「日本語広場」8コースを継続。80名弱の留学生およびその家族が受講している。 ●日本の伝統文化の紹介を行う「日本文化教室」を6月に開設し、茶道・華道・書道・囲碁・将棋・空手教室を毎土曜に開催している。参加者約30人。 ●活動会員等より日用品の提供を募り、留学生支援バザーを2回実施した。 ●スキーツアーを中島記念財團の支援を得て実施した。留学生等約70人参加。
	NPO、ボランティア活動支援	ワールドカップでのボランティア活動他、日本国内でのNPO活動への人材紹介等	●W杯の運営を支援するため、ワールドカップ日本組織委員会経由で57人が主に語学力を生かしたボランティア活動に参加した。 ●またワールドカップ実況放映権を持つHost Broadcast Services社が日本での実況中継を行う各会場での現地コーディネーターとして全国11ヵ所中7ヵ所で7人が活動した。 ●日本英語交流連盟大学対抗ディベート大会の予選会にchairpersonスタッフとして8人が参加した。

### 2. 研修事業

研修	I等研修、T等研修、関連研修	IT関連の実務研修、セミナー等講習、情報収集と提供	●活動会員がパソコン実習を行うIT研修会を、東京地区において合計13回にわたり98人、延べ230人に対して、また、大阪地区において2回にわたり22人、延べ32人に対して実施した。
----	----------------	---------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

### 3. その他

広報活動			●新聞、雑誌等の取材に積極的に応じ、各種紙誌に記事が掲載された。 ●カタログ、パンフを作成し、ABICの概要や活動を分かりやすく説明できるようにした。 ●日本貿易会月報の「国際社会貢献センターのページ ABIC PLAZA」で活動の様子や参加した活動会員のレポート等を毎月掲載し、タイムリーな情報発信に努めた。 ●活動会員向けのインフォーメーションレターを2回発行し、全員に配布した。 ●ホームページに活動記録をさらに追加するなど充実を図った。
------	--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ABIC懇親会

6月12日18時～20時、日本貿易会会議室にて、6月末退任の池上久雄理事長（当時）ならびに後任の吉田靖男新理事長および5月末退任の宮内前事務局長、野津新事務局長の挨拶を兼ね開催しました。宮原会長をはじめとしたABIC役員、活動会員および日本貿易会関係者など総勢165名の参加者があり、大変盛会でした。



当日は、始めに宮原会長より、ABIC設立以来3年にわたりABICの発展に寄与した池上理事長（同）、宮内前事務局長に対し、謝辞が述べられ、引き続き両氏から退任挨拶、吉田新理事長、野津事務局長から就任挨拶がありました。一方、出席者の活動会員である近藤剛参議院議員（元伊藤忠商事）からも退任の両氏への謝辞とABICの一層の飛躍に向けての辞を頂きました。

今後、池上理事長（当時）には顧問として、また宮内前事務局長には参与としてABICの運営、活動を支援していくことになりました。



## ABIC関西懇親会

7月16日16時～18時、関西デスクが入居しているPia NPOの会議室にて開催。関西地区ABIC活動会員、会員企業および大阪府、大阪市、大学、関係機関等60余名の参加があり、活発な懇談が行われました。吉田理事長、池上顧問、野津事務局長の就任挨拶の後、会員企業の三菱商事関西支社の岩間副支社長よりご祝辞を頂きました。



## 東京都中小企業振興公社のビジネス・ナビゲーターとして9名が活躍

東京都は中小企業の育成・振興のため、経営支援、助成金交付等の支援事業を行っています



（敬称略・氏名五十音順）

大森 日出太郎（元 三菱商事）  
岡田 恵二郎（元 ニチメン）  
清宮 信男（元 住友商事）  
小池 拓夫（元 三井物産）  
近野 治夫（元 丸紅）  
福田 義朗（元 住友商事）  
藤井 希祐（元 住友商事）  
三上 亜佐橋（元 太陽誘電）  
渡辺 道雄（元 住友商事）

後列左から清宮、渡辺、小池、大森、近野、  
前列左から岡田、藤井、三上、福田（敬称略） 日本貿易会会議室にて

が、製造業の新製品開発・販路の開拓等、大企業のOB等を活用してさらにきめ細かいフォローフォローアップを行うべく、昨年60名

のビジネス・ナビゲーターを募集し、このうちABICが推薦した9名（左記）の活動会員が採用されました。

9名の方々は、本年4月から活動を開始し活躍中です。

60名のビジネス・ナビゲーターは5班に分かれ、約600社の製造業に対し、それぞれ個別訪問による現状把握を行いつつ、製品の販売支援活動を行っています。

## 埼玉県中小企業振興公社

### インキュベーション・マネージャーに就任

インキュベーション事業として川口市に誘致したベンチャー企業に対する各種支援業務を担当するインキュベーション・マネージャーに、

ABICが推薦の小畠克之氏（元丸紅）が4月1日に就任し、活動を開始しました。



## (財)千葉県産業振興センターと国際ビジネス実務支援契約更新

同センターとの業務委託契約を更新（2003年4月1日～2004年3月31日）しました。

SARSの影響等により中国関連の事業計画が軒並み停滞したこと也有って延引している支援業務もありますが、2年目を迎えて、県下の企業からの支援依頼も徐々に増加しており、各分野にABICが推薦した活動会員が次々と採用され、活動を開始しています。

中小企業支援

中小企業支援

### 千葉県産業振興センターでの活動

	対照組織	活動会員	業務内容
2003年1月～3月	習志野商工会議所	高嶋 正文（元三井物産）	中国語研修（5回）（下記レポート参照）
5月			中国語研修、対中ビジネス研修
1月	流山工業団地共同組合	神谷 誠一（元住友商事）	中国事情セミナー
	木更津総合卸商業団地共同組合	松野 弘（元ニチメン）	タイ調査現地協力
2月	（株）ニチオン	細野 良敦（元三菱商事）	イタリア語通訳（本紙P.6レポート参照）
	（株）山本科学工具研究社	峯本 晴輝（元丸 紅）	カタログ韓国語訳
3月	平和クレス（株）	高木 裕昭（元旭化成）	英文カタログ翻訳
4月	（株）メイナン	今井 正孝（元丸 紅）	中国取引貿易実務研修
5月	瑞穂医科工業（株）習志野工場	白土 茂雄（元三井物産）	中国進出に向けての戦略立案
8月	（株）太陽社	上田 熨（元三菱商事）	契約・進出のための情報収集、海外調査
（セミナー講師等）			
2002年10月	中国広東省ビジネス視察ミッション	松本 勝美（元丸 紅）	同行・通訳（前号P.3にレポート掲載）
2003年2月	下請け企業の直接販路開拓セミナー	篠田 正義（元三井物産）	講師
	海外ビジネス研究会（中国部会）	白土 茂雄（元三井物産）	
3月	FOODEX交流会	吉川 和夫（元トーメン）	
8月	千葉県貿易振興大会講演	坂井 啓治（元ニチメン）	
（企業調査）			
2月～3月	海外関心企業訪問調査	中島 正夫（元伊藤忠商事）	調査員
		鈴木 孝尚（元住友商事）	
		萩内 晋（元川鉄商事）	
		白土 茂雄（元三井物産）	

### ● 習志野商工会議所への 中国語講座実施

たかしま まさふみ  
**高嶋 正文**  
(元 三井物産)

本年1月より3月までの隔週水曜日、5回にわたり、ABICと千葉県産業振興センターとの国際ビジネス支援契約に基づき、中国語講座を実施した。本年8月に予定している千葉県習志野商工会議所が主催する中国「遼寧省・山東省」工業視察の事前研修としての、中国語学習であり、14名の参加者の熱意は高く、終始熱心に講座へ参加してくださった。

社長、課長、会議所員等忙しい方々ばかりの成人向けの講座であり、しかも5回という限られた時間である。そこでなんとか効果を上げるべく、いくつかの工夫をした。

第1に、語学習得にはネイティブ・スピーカーの純粋な発音を耳から聞いて覚えるのが一番と考え、帰国残留孤児の娘さんで、27歳まで中国人として育った福田宏美さんにアシスタントをお願いした。福田さんは標準語の発音がきれいなハルピン生まれで、帰国まで同市の高校で英



授業風景  
(左端が筆者)

語教師をしていた。中国の生活や文化的な背景を身につけた人から、生の発音を聞いていただいた。

第2に、中国語は四声という声調があつて難しいという概念を取り去ることである。確かに四声の学習は避けて通れないが、実際の会話では四声が均等に発音されるのではなく、intonation(イントネーション)が大切である。まず簡単な会話を耳から聞いて、覚えていただくことから始めた。

第3に、中国語の字母であるピンインに慣れるため、6つの基本的な母音と複合母音を合わせた37の母音×21の子音でできる400余りの発音を図表化して、系統的に覚えてもらうことにした。今後、自習するときに、自分で発音が再生できるようするためである。

第4に、漢字共有のメリットを生かして、日中共通の発音、類似した発音、類推できる発音などから、語彙を増やすことに努めた。政治、経済、科学に関する言葉になると、共通の単語が多い。漢字の中国読みに対する好奇心を持つこと等々をお薦めした。

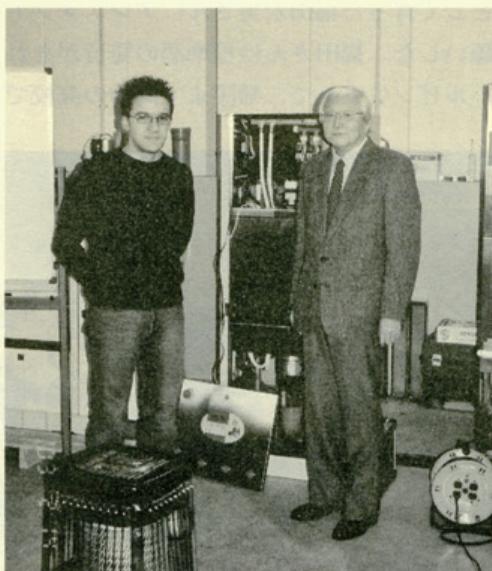
短い時間であるため、工業視察の事前研修の目的にできるだけ添うように、空港で、ショッピングで、会談等で実際に出会うような実用会話も紹介した。

SARSで揺れる中国であるが、8月までにはこの不安が収まり、工業視察が実現するよう願っている。

## ● イタリア語通訳奮戦記

ほその よしあつ  
**細野 良敦**  
(元 三菱商事)

ABICでは千葉県産業振興センターと業務委託契約を結び、人的サポートの必要な千葉県の



中小企業に人材を紹介している。その一環として、船橋市にある医療器具製造・販売会社の株ニチオンより、来日するイタリア人技師との技術打ち合わせにおけるイタリア語通訳派遣の依頼がABICにあり、希望者募集を行ったのを受けて応募、採用された。

ニチオンは数年来、イタリア・ATOS社より「ベッド・パン・洗浄機」を輸入販売し、数百台の実績を上げている。この機械は、病院で使用される尿器、便器、血液吸引瓶を使用直後の状態のまま自動的に洗浄・殺菌するもので、最近の院内感染防止対策などの観点より需要が伸びている。日本国内では、4社の製品が競争しているが、うち3社は輸入品である。

病院側の使用方法にも問題があるが、この種の機械の通例で過去たびたび水漏れや作動不良が発生したため、今回イタリアより開発・設計担当技師を招き、打ち合わせを行った。

私は海外駐在20年余りであるが、5年間がイタリアで、当時は英語を話すイタリア人が極めて少なかったこともあり、必要に迫られて体で覚えたイタリア語であった。イタリアという国・言語に愛着を持っていることから、5年ほど前から週1回の会話教室に通い、通常の日常会話ならこなせると自負して応募した次第である。

通訳業務は、本年2月12、13、14、18日の4日間、朝9時半より夕方7時過ぎまでぶっ通しで延べ36時間に及んだ。

通訳する内容はすべて、機械の作動方法やトラブル、これに対する対応策、搭載されているコンピューター・ソフトウェアの説明といった、高度に技術的な内容のもので、的確な用語の選択にかなり苦労した。しかし、機械を前にし、白板に図示された説明を訳すことから、技術知識のある日本側が「以心伝心」で理解できる部分も相当あり、双方の意思の疎通とコミュニケーションは図れたと思う。

現役・駆け出しの商社員時代は、通訳すると言っても、主点は営業面の交渉であったが、久しぶりにビジネスの現場に立ったとの感じがあり、刺激的な4日間であった。

今回は、中断なく8~9時間余りを、イタリア人技師が機械の説明を行う横で、ずっと立ったままで通訳するという仕事であったので、頭を使うだけでなく肉体労働的要素も強かったと感じた。いずれにせよ、刺激的な時間を持つ機会を与えていただいたことに感謝したい。

## 大阪と中小企業

昨年12月に関西デスクを開設以降、ABIC関西では從来からの大学講座に加え特徴のある活動を開始しています。

大阪と言えば、東大阪市だけをとっても最近メディアを賑わせている人工衛星の打ち上げを模索するグループや「ロダン21」と称するグループから、優れた技術を持ちながら技術力に埋もれなぜかビジネスを軌道に乗せようとしない企業に加え、労働集約性産業で今や国際競争力を完全に失い家内工業で細々と生計を立てている企業等々、多岐にわたる、ざっと数えても8,000社の中小企業がひしめきあい、大阪経済の底辺を支えているのが現状です。

### ● 東大阪クリエーションコア、 特許流通センターで中小企業支援

大阪府としては昨年来、大阪の根幹を成すと言われるこれらの中小企業に対し、大阪復権を賭けて最大限の援助をするとの方針を打ち出し、大学を中心とする技術面の協力体制に加え、海外での実務経験がある国際化時代に相応しい人材を東大阪中小企業のビジネスコーディネーターとして迎えたいとの方針を打ち出しました。

大阪府の方針はちょうどわれわれABICの方針と趣旨に合致し、多数の一般応募者の中から外国語を含む厳しい選考を経てABIC会員4名（戸川順治氏〔元 伊藤忠商事〕、中込喜雄氏〔元 住友商事〕、峯本晴輝氏〔元 丸紅〕、萬木寛氏〔元 丸紅〕）を本年4月、中小企業のメッカ、東大阪クリエーションコアにコーディネーターとして送り込むことに成功しました。また、同時に大阪の中小企業の巻き返しに不可欠な知的所有権の流通・開発に関連し、特許庁の下部機構である特許流通センターに2名（萬木寛氏〔元

丸紅〕、新居欣造氏〔元 丸紅〕）を特許流通アソシエイツとして送り込み、特許の海外流通や紹介、国内での活用等々、ビジネスの面だけでなく技術面でも大いに協力できる体制を確立しました。製品の輸出をはじめ中国、その他アジア地域への海外進出に至るまで広範囲にコンサルテーションのできるABICの活動は次第に軌道に乗りつつあります。

### ● 広がりを見せる ABIC関西での活動

これらABIC関西の最近の活動は、大阪府下にとどまらず、神戸市をはじめとする他の関西圏でも次第に知られることとなり、企業ごとに直接協力を求めてきたり、関連する英文や中文翻訳等の依頼が相次ぐなど、活動の範囲が広がりつつあります。また、同時に東大阪の中小企業を研究対象として取り上げたいという大学もあり、“産学官”連携もわれわれを中心に挾み本格化する方向に進めています。

対象が広範囲にまたがり、目覚ましい実績が上がるまでには相当の時間がかかる可能性もありますが、商社OBの特徴と今なお衰えない実力を存分に發揮できる案件開拓に今後とも最大限の努力を続けていきたいと思っております。関係者の方々および会員の皆様方の一段のご協力とご指導をお願い申し上げます。

（関西デスクコーディネーター 藤原 照明）



戸川 順治 氏  
(元 伊藤忠商事)



中込 喜雄 氏  
(元 住友商事)



峯本 晴輝 氏  
(元 丸紅)



萬木 寛 氏  
(元 丸紅)



新居 欣造 氏  
(元 丸紅)

## あいち投資サポートオフィス 外国企業誘致アドバイザーに就いて



うみの きよし  
海野 清  
(元 三菱商事)

愛知県は県内へ外国企業の進出を促す目的で、昨年6月、県産業貿易振興会内に当該企業に対する情報提供・相談の一元的窓口「あいち投資サポートオフィス」を開設した。活力ある企業の誘致に取り組み、地域のさらなる国際化

と県内企業へのインパクト、新しい技術・経営の導入が役割である。そこで海外勤務・貿易実務経験のある民間人が外国企業誘致アドバイザーとして配置されることとなった。ABICからの推薦もあり、縁あって小職がその任を担って約半年経過したのを機に活動状況等を紹介させていただくこととする。

低迷が続く景況、加速する海外生産シフトなど環境は厳しいが、海外には日本市場はやはりビジネスチャンスを多々秘めた先と映っている

## 自治体への国際化支援

はずである。まずは本窓口を幅広く活用してもらうことが肝心であり、内外各方面へのPRからスタートした。

それが奏効してか、開所早々から千客万来であった。拡販のためのDistributor探し、テーマパーク建設、IT関連（教育センター、技術者派遣）、医療関連（含バイオ）でのパートナー探し、浄水器の日本での製販F/Sのための情報提供、市場調査での来日応対など、さらに県所有地の売り込み、海外ミッションの受け入れ、セミナーへの出席、既存外国企業への県内進出勧誘活動等々。またアフリカ方面より来るうさんくさい秘密資金の山分け話、外国企業日本進出をテーマとする卒論作成のための学生への情報提供など、種々雑多である。舞い込む話は直球、変化球、ワイルドピッチありで、それは商社で培ったはったりと図々しさで適宜交通整理し、対処している。

県所有地に工場建設を図り、雇用機会を広げるのが究極の目標である。その意味では、上述の通り、その前段階の話がほとんどの現状で、成果が上がっているとは言い難いが、お役所仕事の感を抱かせず、即返を信条に質の高いサービスを提供し、段階的に着実なフォローをし、信頼のおける窓口と認知してもらうことが、口コミを創出、ひいては将来的な直接投資につながるものと考えることにしている。そのためには

は、府内はもとより他関係各機関との横展開をいかに図れるかに懸かっているともいえる。

一方、客観的に見て当県は、恵まれた自然環境、産業の集積地、日本の中央に位置し全国への好アクセス等の強みはあるが、各自治体とも地域経済の浮沈を賭け誘致を競い合う中、優遇策もさして差異がないとなれば、地域の魅力に加え地元の熱意が成功の鍵となるであろう。無料の公的サービス機関にアクセスしてくるのは主に中小企業である。頼りにされるのは願ってもないのだが、時におんぶに抱っここのケースもあり、サービスの範囲をどこで線引きすべきか迷うことがあるものの、従来の殻を破り一味違う、一步踏み込んだ誠意あるサービスの提供に努めている。

他方、三大都市圏を形成しているにもかかわらず、当県は知る人ぞ知る、あまねく知名度が行き届いていない面があり、これをいかに高めていくかは今後の課題である。2005年の中部国際空港開港、愛知万博開催という二大プロジェクトは大きく羽ばたく絶好の機会であり、せめて助走路整備の役目を果たし、通算して最も長く住んだことになる当地で、少しでもお役に立てればと願うものである。現役を退いてからも技術の進歩は目まぐるしいが、おかげでITイリタラシーにもならず、それなりに充実した多忙な日々を送っている。

## 国際人道医療支援NGO“メドゥサン・デュ・モンド”への参加

きし たつや  
**岸 達也**  
(元 三井物産)

東京事務所での  
打ち合わせ

ABICから、フランスを本拠地とする医療支援NGO “メドゥサン・デュ・モンド” (MDM：世界の医療団) の日本法人が人材を探している、との情報をもらったのは昨年の8月末であった。4月末にそれまでの仕事からも引退して次のステップを考えていたところだった。かつてのパリ在勤中、フランスの緊急医療チームの国際的ボランティア活動に強い印象を受けていたこと、また、かなりさび付いてはいるが、現役時代に使っていたフランス語と海外勤務経験が多少ともお役に立てるのなら、との気持ちもあり、手を挙げてみた。

フランスで“国境なき医師団”と並び称せられるMDMは、1980年、パリに設立された国際人道医療支援団体で、その使命は、ボランティアの医師を中心に、国境、民族、宗教、政治、



思想の枠を超えて、自然災害、武力紛争、政治的压力の被害者、難民、少数民族、先住民、ストリートチルドレン等を対象に医療援助活動を行うことにある。現在、その活動地域は世界全体陸に及び、プロジェクト総数は300に達しようとしている。世界16カ国に活動拠点を持ち、日本もそのひとつである。

池上ABIC理事長（当時）の紹介でメドゥサン・デュ・モンド・ジャポンの理事長ともじっ

くり話し合い、最終的にはパリ本部の承認も得て、昨年11月に仕事を始めた。主たる任務は、企業とのパートナーシップ構築である。MDMへの民間からの寄付金は、従来そのほとんどは個人からのものであったが、今後の活動拡大のためには資金調達に一層の努力と工夫が必要であること、一方、日本の企業の間でも近來、社会貢献がコンセプトとして確立し、新しい企業倫理が定着しつつあることに鑑み、これから企業へのアプローチを本格化しようという発想である。

企業とのパートナーシップを確立することにより、MDMの財政的基盤が強化されることはもちろんあるが、企業側にとっても、企業イメージの向上、従業員のモチベーションアップといったメリットがなければならず、かつあるはずだと考え方に立つ。

まずは、本部で団体の理念、活動の実態、日本法人の位置付けなど十分に理解してもらいたいとのことで、昨年11月の最初の1週間、パリで本部事務局の幹部職員からじっくり話を聞くこ

とから仕事が始まった。団体の理念は理解できても、今度は日本の企業側の社会貢献に対する姿勢はどうなのか、従来の一般的な認識といったレベルから出て具体的に勉強しなければならないことは多い。そこで、帰国後の1~2カ月は、ABICから参考文献を借りてきて読んだり、日本経団連の関連部門を訪問したり、さまざまな講演会や集会に出てみたりと勉強に集中した。

並行して、日本企業向けにMDMの理念や活動の歴史を説明した小冊子作りに取りかかった。本部自体が企業との本格的取り組みを検討し始めたのは比較的最近である。そのために作ったパンフレットなどを参考にしながら、「企業市民との協働（企業に息づく人道援助活動）」と題する小冊子が出来たのが本年2月中旬である。

この間、過去の人脈をベースにいくつかの企業を訪問したが、本番はこれからである。どれだけの成果が上げられるか今のところ全く分からぬが、理念を共有する企業との間に、長続きのするパートナーシップを、できるだけ多く築き上げたいと念じている。

## 国連WFP協会シニア・マネージャーに就いて

にった みつなり  
**新田 充成**  
(元 三井物産)

国連WFP協会（JAWFP）は、国連機関の世界食糧計画（WFP：World Food Programme）日本事務所の活動を日本国内で支援する目的で2001年10月に設立されたNPO法人である。当座は国連職員が協会職員を兼務していたが、協会の正職員第一号として本年1月にシニア・マネージャーに就任した。ちょうど人生第二クールの過ごし方を思案していた折から、一般メディアの求人広告と並行したABIC経由の募集案内を見て応募した。

WFPは、世界から飢餓と貧困を撲滅し、人々の自立と生活向上をめざして1961年に設立された国連機関。イタリアのローマを本部とし、6連絡事務所（ジュネーブ、ニューヨーク、ワシントン、ブリュッセル、コペンハーゲン、横浜[1996年開設]）、6地域事務所および82現地事務所を置き、職員8,000人を擁する世界最大の食糧援助機関である。運営委員会は36メンバー国で構成、運営資金は各国政府からの任意拠出金と民間団体・企業・個人からの寄付金で賄われて



いる。近年はアフガニスタン、北朝鮮、スリランカ、イラク、アフリカ諸国等において戦争、紛争、自然災害等により発生している難民・国内避難民に対する大規模な食糧援助を実施する等、世界の飢餓・貧困撲滅のため、職員の90%を現地に張り付けて援助活動を展開している。2002年には、世界の82カ国で7,200万人を支援、年間支援活動支出額は16億米ドルであった。

政府との連絡調整を主務とするWFP日本事務所に対し、JAWFPは民間部門において啓蒙活動を通じた協会の会員拡大と募金集めを主たる事業とする。具体的な活動としては、①日本国内における世界の食糧援助問題に関する情報提供・啓蒙（ニュースレター発行、学校・市民団体・NGO等に出向いての活動説明会実施等）、②WFPに対する情報・資金提供とそのための募金活動、団体・企業・個人への支援要請、および③これらに資する事業（グッズ販売、イベント企画等）を行っている。

目下、イラク危機対応に活動の多くが割かれているが、本年のWFPのメインテーマはアフリ

NGOへの協力

力である。特にサハラ以南と北東アフリカ地域を中心に飢餓の脅威にさらされる人たちは4,000万人に達しようとしている。アフリカの危機救済を視野に入れたアフリカ開発をテーマとして、本年10月にTICAD III（日本政府主導による第3回東京アフリカ開発会議）が開催されるが、当協会もキャンペーンを行う予定である。また、11月には国連大学ギャラリーにおいて飢餓の子供たちを救うための学校給食キャンペーン写真展開催をはじめ種々活動を予定している。



食糧の配給  
(アフリカ・ブルンジ)



配給された食糧を持ち帰る  
子供たち (東チモール)

今、世界の飢餓人口は8億人、そのうち2万4,000人が毎日死んでいる。5歳未満の飢えている子供たちは2億人、その3分の1は学校にも行けずに、5秒に1人の子供が死んでいる。一方、世界の年間食糧総生産量は総需要を十分賄うだけの量があるが、世界人口の20%にすぎない先進国で、総食糧生産量の60%を消費し、その3分の1が食品ロス（食べ残し・廃棄）として捨てられている。日本だけみても、年間700万トンの食品ロスを出しており、これは世界の食糧援助総量の70%にあたる。1,000円をセーブすれば、飢えている人たち33人に1日分の食事を、4,000円で一人の子供に1年間学校給食を与えることができる。

「飢えに苦しむ人たちに募金を」、と言うとかなかなか募金は集まりにくいものだが、毎日の生活の中でほんのちょっと留意すれば、相当数の人たちを救うことが可能になるということを知ってほしい。そのための啓蒙活動を日々展開している。関心のある方は、ぜひ当協会のホームページをのぞいてみていただきたい。

URL: <http://wfp.or.jp>  
e-mail: jawfp-info@wfp.or.jp

#### 海外での活動： ジェトロ専門家派遣

## メキシコにおける日本食品の市場可能性調査

うえだ いさお  
**上田 熱**  
(元 三菱商事)

ウォールマートにて  
ジェトロ中畠氏と  
(筆者:右)

メキシコへのJETRO専門家派遣の依頼がABICにあり、スペイン語もできないのに、あえて応募した結果、商社の食品部門での経験が買われたのか採用された。派遣期間は本年3月13日～21日の9日間で、派遣目的は日本食品の輸出可能性調査とグアダハラ市で開催された「食品見本市」での「日本の食」に関する講演であった。結局、講演は場所が取れずに中止となり、輸出可能性調査とJETROブースでのアテンドが仕事となった。

初めてのメキシコ訪問だったので、日本文化がこれほど普及しているのには驚いた。ヤクルト乳酸飲料やサントリーのメロンリキュール「緑」の成功例あり、また米国産カップ麺は空港でもスーパーでも至るところで目に付いた。鉄板焼きを中心提供する「サントリー」、「スエヒロ」および「弁慶」等の高級日本食レストランもすっかり現地に根を張り、このような店で食事することが、一種のステイタスシンボ



ルとなっている。

同じ寿司でもにぎり鮨は好みではなく、カリフォルニア巻きがファーストフードの人気となっている。メキシコ国内には500店舗にも及ぶ日本食レストランがあると聞いた。日本食に対するイメージは、ヘルシー、高品質であり、パッケージがきれいで工夫がある。ただし価格が高いというところだ。

学校では日本のことなど教えていない。そうだが、テレビをはじめとする電気機器やホンダの自動車、さらには子供用のゲームソフトが日本の印象を作り上げている。日本とドイツ

製品は品質が良く、中国製品は使い捨てということである。

メキシコの人口は約1億人であるが、貧富の差が大きく、中間所得層が伸びていない。レストランでの食事も含めてヘルシーな日本食を実際に購入できる人は富裕層に限られると言われている。メキシコはNAFTA加盟国であり、現在のメキシコ市場には、米国で販売されている食品および飲料はすべてそろっている。したがって、今後日本食品を販売するに際しては、価格的にも品質的にも国際競争力を持つ商品である必要がある。幸いにも日本食ブームはまだまだ続くという意見が多い。日墨間のFTA交渉の進捗にもよるが、輸入関税が大幅に下がるとすれば、日本食品のメキシコへの輸出の可能性は、メキ



グアダラハラ近郊のレストランで茶業組合の松延氏と筆者（右側）

シコ人の日本食に対する高い評価を勘案すると、かなり高いと考えている。忙しい9日間であったが、仕事の合間にメキシコ人の友人とテキーラを飲みながらマリアッチも楽しんだ。こんな機会を与えて下さったABICに深謝する。

## 大学・エクステンションセンターでの講座

2001年度春に始まった大学・エクステンションセンターへの講師派遣事業も3年目を迎え、お陰さまで順調に成長しています。2003年度は、信州大学、関西学院大学など6大学から前年度に引き続いて講座の提供を要請されたほか、新規に青山学院大学、法政大学など10大学からも講座の委託を受けました。

講義テーマも大学側の要望に応える形で多様化しています。例えば、昨年「日本製造業の国際化と商社機能」の講座を提供した信州大学の場合、新しいコーディネーターの先生のご専門の関係で「食料ビジネスと総合商社」に変わりました。新しい講師の皆さんも、新しいテーマに進んで挑戦されており心強く感じております。2003年度は現在前期の授業が終了、通期講座のため後期も継続される大学では、折り返し点ということで学校側の意見を聞いたり、講師同士の反省会を開いたりして後期に備えています。いずれのケースでも、一コマ90分の中で何をどう話すかが一番苦心されているところで、とかく序論に時間をかけ過ぎ最後は駆け足となりがちのようです。しかし、講師の方々は試行錯誤を重ねながら確実にノウハウを会得されておられます。

2003年度の特徴は、講座のテーマにバラエティーが出てきたことと、過去の講座例を挙げて注文を受けるケースが出てきたことです。今後、「定番」と言えるような主要講座を軸に講義資料などを揃えて、講座の質を高めていきたい（誰が担当しても一定以上のレベルの講座が提供でき、かつ講師の個性と体験が生かされる授業に

なるのが理想です）、コーディネーター席として、どうすれば講師の方々のお役に立てるか工夫したいと思います。

一方、エクステンションセンターは、講座のテーマだけ見て受講者が選択しますので、企画力とともにどうやって受講者を惹きつけるかの工夫が必要です。これまでのところ、正直に言って「国際社会貢献センター提供講座」の集客力は今ひとつです。われわれコーディネーター席の力不足で申し訳ありませんが、早稲田、明治、東海、獨協などの各センターと協議してレパートリーを増やしていきたいと思います。会員の方々の斬新な企画をご提案頂けると幸甚です。

（大学講座コーディネーター 和田 稔）

### ● 横浜商科大学でのオムニバス講座

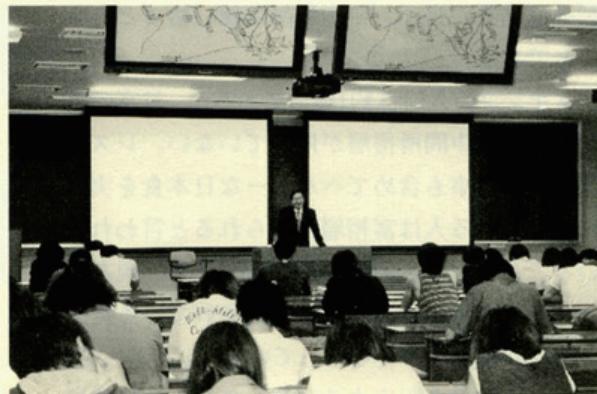
一つの大きなテーマをいくつものサブテーマに分け、そのサブテーマごとにエキスパートがリレー方式で講義を進め、結果として狙った大きなテーマについて総合的に理解してもらう。こうした講義のやり方を「オムニバス講座」と言いますが、複数の講師から多面的なものの見方を学び、教科書に載っていない面白くかつ多様な実地体験を聞けるなどの理由から、最近大学やオープンカレッジで人気を呼んでいます。

特定の地域や商品、あるいは財務や経理、人事や法務などさまざまな分野のエキスパートがそろっているという意味では、ABICはまさにエキスパートの宝庫であり、講師としての人材のデパートなのです。

教育

## 横浜商科大学オムニバス講座 2003年度 授業内容

講義週	講義内容
1	講義のガイダンスと国際的な貿易の枠組み
2	日本の貿易と海外直接投資
3	国際社会の理解のために
4-6	アメリカ的なものの考え方 (1) (2) (3)
7-10	石油とアラブ (1) (2) (3) (4)
11	中国、中国人とは何か?
12	対外経済開放以降の中国、その政治と経済
13	生産拠点或いは販売市場としての中国
14	中国、今後の問題点
15-17	アセアンの歴史、現在と今後の展望 (1) (2) (3)
18-20	中南米概観、その特色と魅力 (1) (2) (3)
21-23	拡大するEU (1) (2) (3)
24-26	世界をめぐるマネーの動き (1) (2) (3)



桃山学院大学での講義



昨年から横浜商科大学に採用いただいている講座「国際経済事情」はこのような特色を生かした通年の講座です。4月に開講して前期に12コマ、後期に14コマ、年間合計26コマの講義を計9人の講師がリレーしながら世界各地の経済と生活を語ります。学校側の「これから社会人となる若い世代に驚きと感動を与えるような、実社会あるいは世界各地での生活に根差した講義をしてほしい」という要望に応え、ABICでも各地域の大ベテランと商品や市場のエキスパートにご登場願い、なかなか普通の大学では聴講できないユニークな講座になっています。

昨年の実績を見た他の大学からも同じような講座を提供してほしいという要望が相次いでおり、本年度はすでに18校から受注がありました。すでに決まった講座については講師候補も決定済みですが、今後随時要請が入ってくるであろう新しい講座に貴方もチャレンジしてみませんか？私たちの経験と知識を新しい世代にうまく伝えていく。これも私たちに課せられた大きな責任だと思います。

### ● 大学講座、関西でも人気

関西地区でも大学に講座を提供するという活動が根付いてきました。きっかけは日本貿易会の特別研究会の成果をまとめた『IT革命と商社の未来像』（中谷巖編著）に興味を持たれた関西学院大学経済学部から「e-commerce時代の総合商社」というテーマで商社とITの実践的な関係を説明してもらいたい、という依頼があったことでした。

あらゆる商品を扱うことを自慢にしている総合商社OBでも、最新の情報技術を語れる人材

は、とりわけ当センター会員の年代にはざらにいるわけではありません。もともと会員の少ない関西ということもあり組み立ては難航しましたが、難しいほど力を出すのはさすがは元商社マンです。基本的な考え方、実際に現在商社活動のベースになっているシステムの実例、商社がリスクとイニシアティブを取って情報産業の会社を立ち上げ運営している実例など、8人の講師が工夫と熱意に溢れた講義を行いました。

受講生の数も常に200人を超える人気番組となりましたが、毎回のアンケートには、あるいは鋭い指摘あり、あるいは実話への感動あり、あるいは講師への感謝ありで、中には「自分はメーカーに就職が決まったが、やはり総合商社にすべきだった」と大書した学生もいて、私たちにとっても感激的かつ今後への示唆に富む嬉しいものでした。関西学院大学からはすでに本年度後期にも同様の講義をしてほしいとの依頼をいただいています。

この講座に関する関西会員とのコミュニケーションを通じて、関西地区における大学講座担当の必要性が一段と認識され、本年度から関西デスクで赤田堅、藤原照明の両氏にコーディネーターをお願いすることになりましたが、早速、桃山学院大学経済学部、同志社大学商学部、同大学院などからリスクマネジメント、日本企業論、貿易実務、ワークショップなどのご依頼が相次いでおります。会員の皆さまの一段のご協力をお願い申し上げます。

（大学講座コーディネーター 増田 政靖）

ますだ まさやす

## 小・中・高校向け講師派遣グループ便り

2001年に小・中学校の「国際理解教育」への講師派遣でスタートした活動も2003年には、小学校は減り、中・高校が増える活動となりました。代わりに小・中学校向けは日本に増えつつある外国人居住者の子女の編入児童・生徒のための「適応・日本語指導」という経済のグローバリズムに伴う「内なる国際化の支援」という新しい分野の活動が増えました。

教育

### ● 横浜市立横浜商業高等学校の例

これは横浜在住の会員の方の紹介から生まれた「総合的な学習」授業に1学期まるまるABIC講師を派遣するというビッグプロジェクトです。検討・折衝に1年間の日時をかけ、下記12の講座に講師派遣を決定しました。講師は大部分が横浜在住、一部東京・千葉となっています。

受講対象者は平成15年度から新設された「国際学科」の高校1年生です。

#### 【講座の組み立て】

- ① 国際感覚の滋養：各国事情の講座を8コマ 「遠くて近い国、ポルトガル」から「英国・スコットランド・イタリア・エジプト・中国・インド・パキスタン・近くで遠い国、韓国」まで8ヵ国、それぞれの国の駐在経験者が担当。
- ② 国際感覚の実践的応用：「国際人としてのマナー」
- ③ 問題意識：「アメリカ人の高校卒業パーティ PROMと自立について」
- ④ コミュニケーション：「アメリカ人のユーモアについて」
- ⑤ 国際現状認識：「資源の輸入・製品の輸出の日本から、企業進出の時代へ」

以上、合計12講座とし、毎週火曜日に4月から夏休みを挟んで9月までの半期の授業となりました。

#### 【問題点】

一般的な講演や大学の選択制講座とは異なり、

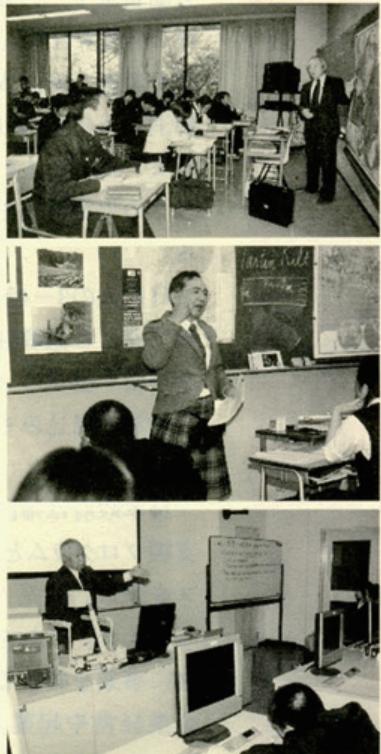
横浜商業高校講師（4月28日～9月16日）



横浜商業高校にて先生と事前打ち合わせのため集まった講師陣

学校の教育目的に沿った、また50分授業という枠組みに従う講座であること、また聞く一方ではない質問参加型の授業構想であるため、講師各位は慣れない時間管理に苦労されました。

しかし、中にはパワーポイントを駆使し、視覚映像の助けを借りて、ぴったりと講義を30分に終え、質問タイムをたっぷりと20分取って、生徒から思わず歓声と歓喜の拍手を浴びた講師もいました。しかもテーマが「イタリアン・ファッション」とクラスの半数を占める女生徒に親しみやすい切り口にしたため、繊維出身の専門性を生かしたABIC講師らしい講義となりました。



（敬称略）

実施日	講 師	元勤務先	テ マ
4月28日	松井 清治	三菱商事	ポルトガル
5月6日	羽生 寛夫	伊藤忠商事	イギリス
5月13日	稻永 丈夫	住友商事	スコットランド
5月27日	矢野 清一	伊藤忠商事	イタリア
6月3日	岡本 靖彦	三井物産	エジプト
6月10日	白土 茂雄	三井物産	中国
6月17日	長嶋 昭美	住友商事	インド・パキスタン
6月24日	前田 勝男	丸 紅	韓国
7月1日	浅香 正美	三井物産	マナーについて
9月2日	川本 恒彦	三菱商事	高校生の卒業パーティーと自立
9月9日	松川 励一	丸 紅	ユーモアについて
9月16日	倉橋 優	松下電器	企業進出の時代

### ● 都立北多摩高等学校の例

これは東京都内の高校で成立した最初の案件ですが、休日となった土曜日を利用して受講希望者（生徒、PTA）に対して行う「週休日特別課外講座」です。

1年間を通じ5回で、1回に3人の講師が3授業を同時並行で行うもので

ポルトガル

スコットランド

イタリア

す。既に5月と6月の6講座を消化し、10月、11月、12月の講座はこれから新規募集する予定です。

5月のテーマは「世界の国々を知る」、6月は「実践的語学」で行いました。後期はいよいよ本題の「職業の面白み・魅力」で生徒が職業のイメージを持ち、将来何になりたいという志を持つようになるのが学校側の希望です。

### ● 多摩市立教育センターの例

多摩市は巨大な住宅地であります、最近外国人の居住者の増加に伴い、「日本語の分から

ない子供達」の市内の小・中学校への編入学が増え、その指導に頭を悩ましているとの引き合いを受けました。

ABICから現地駐在経験者で現地人の心の分かる講師を派遣し「日本語指導」を開始しました。「タガログ・ハングル・中国語（台湾・天津・北京）」の小・中学生に主に多摩地区在住の講師があたっています。骨の折れる仕事ですが、講師諸氏も「自分の子供の恩返し」と張り切っておられます。

（小中高国際教育コーディネーター 藤村 登）

## 「中南米日系人の帰国前技術研修」を担当して

そのだ まさとし  
**園田 雅敏**  
(元 丸紅)

ABICは(財)海外職業訓練協会（OVTA）厚生労働省傘下）の要請で、2003年1月から3月にかけ「中南米日系人向けの帰国前研修」に8名の講師を派遣した。本研修は、バブル期に入手不足解消のため特別就労ビザで来日した「中南米日系人」約30万人の中で、長期のデフレ不況下で多くの失業者が出ていることが背景となっている。

日系人の3~4割が高学歴者だが、ほとんどが職工などの低職種労働に就いているため、高度な技術や経営のノウハウが身に付かず、帰国後の就業の見込みもないまま居残りを図る人が多くなっている。

日本政府は帰国後の就業を容易にするための支援プログラムとして、5年前から技術訓練コースを設け、日系人にOVTAで短期技術研修を行ってきた。これをさらにレベルアップし、帰国後に事業を始める可能性も考慮し、今回新たに企業経営や起業の講義を取り入れたいとしてABICに講師派遣を依頼してきたものである。

1月24、25日、私はABICから派遣される講師のトップバッターとして「組織と人事労務管理」を担当した。日系人といつても日本語能力や日本社会の理解度、職務の知識と経験の程度が分からぬため教材作成に苦労したが、最終的に「組織作り、人事労務管理、能力開発、労使関係、安全衛生管理」の5つのテーマについて基礎的な理解が得られるように、ケース・スタディや経験ができるだけ盛り込んだ。

OVTAの研修所は千葉県幕張にあり、ホテルのように立派な設備、講義は2日間、朝9時半から夕方5時までの集中研修である。クラスは、

30代半ばの日系3世、4世のブラジル人、ペルー人男女2名の計4名。ケース・スタディでは、異文化である日本のシステムとの差異について的を射た質問や厳しい意見も出たが、事例を上げて具体的に説明をしたので、理解を得ることができたと思う。

受講者は、将来帰国した後は日本関連の仕事で活躍することを希望しており、その能力開発という国際プログラムにABICが貢献できたことは有意義であり、私も過去の経験・知識を生かしてお役に立てたことは幸いであった。



### [ABIC担当研修プログラム]

1月24、25日「組織と人事・労務管理」園田雅敏  
2月3、4日「原価管理」平田一男（元 三和銀行）  
2月5、6日「財務管理」山本一良（元 三菱商事）  
2月7、8日「資金調達」菊池正郎（元 三菱商事）  
2月12、13日「ベンチャー企業の成功のポイント」

前田耿史（元 三菱商事）

2月17、18日「経営戦略」

佐藤徹（元 伊藤忠商事）

2月19、20日「事業創造とマーケティング」

布施克彦（元 三菱商事）

2月28日、3月1日「在庫・物流管理」

高山元佑（元 住友商事）

3月10~12日「ビジネスプランの作り方」

今井正孝（元 丸紅）

## 留学生支援活動

### ● スキーツアー実施

2003年2月27日(木)～28日(金)、留学生およびその家族を対象に、志賀高原丸池スキー場にスキーツアーを実施しました。

中島記念国際交流財団の支援を得て、大学村およびResident Assistant(留学生支援のための大学村在住の日本人学生)の協力によりABICが主催したものです。

参加者約70人、バス2台に分乗し、現地に到着、スキーを楽しみ、夕方からは食べ放題の焼肉パーティ、そしてパーティゲームと大変盛り上がりいました。

ABICから下記4名(敬称略)の方が参加しました。原精志(元丸紅)、千原長美(元丸紅)、増田政靖コーディネーター、千野滋樹コーディネーター

### ● 留学生支援バザー

7月13日(日)、大学村開村以来第5回目のバザーを開催しました。今回は、衣料品、日用品を中心に小規模だったので、コーディネーターと



一部有志の人々で実施しました。

### ● 留学生との新たな交流を計画中

日本語、日本文化、バザー、文化祭、スキーを介して支援、交流を深めてきましたが、新たに音楽、絵画、陶芸等のアートを通じての交流を計画中です。器楽演奏(クラシック、ジャズ他)、絵画、書道、陶芸、ダンス等のジャンル別に会員の皆さんの登録を受付中ですので、ABIC事務局宛お知らせ下さい。秋の演奏会、展示会を計画中です。(コーディネーター 山田 雅司)



40代から準備開始!  
ちくま新書

会員情報

筑摩書房  
新書判 224頁  
¥700(税別)  
5月8日発刊

## 『54歳引退論—混沌の長寿時代を生き抜くために』

大学・オープンカレッジ講座コーディネーターの布施克彦氏(元三菱商事)が『54歳引退論』(ちくま新書)を執筆されましたので、ご紹介いたします。

5月21日付、一般書店売り上げランキング(新書・ノンフィクション部門、トーハン調べ)の10位に入りました。

平均寿命80歳の時代。その一方で終身雇用制度は揺らぎ、リストラの嵐が吹き荒れる。たとえ60歳まで勤めても、年金が期待通りもらえるかどうか分からぬ。サラリーマンの周囲は不安なことばかりだ。著者は40歳代前半でサラリーマン引退に向けての準備を始めた。糸余曲折を経て54歳でサラリーマンを引退し、現在ABICでの活動を含めた新しい人生を開拓中である。著者は自らの経験をベースに、中高年のサラリーマンに対して新たな生き方を提唱する。会社や国に頼ることなく生きていくための個人力を

つけること。そのための人生再構築に向けて、今すぐ準備を始める。混沌の長寿時代を生き抜くためのヒントが、本書には溢れている。

### 新たに就任したコーディネーター紹介



中国デスク コーディネーター

久佐賀 義光  
(元三井物産)

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく!

e-mailアドレス、住所・電話番号を変更された方は、事務局までお知らせ下さい。  
e-mail: abic@jftc.or.jp FAX. 03-3435-5979

## 正会員・賛助会員ご入会のお願い

国際社会貢献センターの運営費は、会員の皆様から頂く会費で賄われております。

今後とも更なる会員の皆様のご援助、ご協力をお願い申し上げます。

**正会員** (法人・個人) センターの活動を推進する団体および法人、個人。

年会費：法人および団体 1口 5万円

個人 1口 1万円

**賛助会員** センターの趣旨に賛同し、賛助会員としての会費を納める団体および法人、個人。

年会費：法人および団体 1口 1万円

個人 1口 5千円

### 正会員

(2003年8月現在)

団体・法人				(会社名ローマ字アルファベット順)			
〈10口〉	(社) 日本貿易会 丸 紅 (株)	伊藤忠商事(株) 三井物産(株)	住友商事(株) 三菱商事(株)	日商岩井(株)			
〈6口〉	(株) トーメン	豊田通商(株)	ニチメン(株)				
〈4口〉	株日立ハイテクノロジーズ						
〈2口〉	稻畑産業(株) 川鉄商事(株)	阪和興業(株) 協同木材貿易(株)	興和(株)	蝶理(株)			
個人							
(敬称略、ローマ字アルファベット順)							
池上久雄 小島順彦 寺島實郎							

### 個人賛助会員

(敬称略・ローマ字アルファベット順) (2003年8月現在)

〈2口〉	荒木道介	坂東寛隆	原芳道	日野勝子	公平伸夫	久保田隆	
前田耿史	三木紀元	門馬寛巳	新田充成	野村哲三	及川洋	篠井英毅	
多田勝彦	玉木興畠	綱川渡	山田芳正	柳沢信義		以上18名	
〈1口〉	阿部徹	安福哲一	安達勝太郎	荒木治	有田五郎	芦田均	
東光子	千野滋樹	藤井希祐	藤田政晴	藤田幸雄	深澤満穂	藤川一弘	
福田和義	福田正人	福田繁	福ノ上敦	布施克彦	外賀進	花澤和郎	
羽生憲夫	橋本文男	橋本政彦	畠宏幸	日比野圭三	日笠徹	平田一男	
菱川治	細野良敦	伊賀山欣也	生島幸哉	今田利征	今井正孝	稻永丈夫	
井上一昭	石田錠二	石束吉孝	伊藤久	伊東進	唐澤幹太郎	川内直次	
川口正美	加輪上敏彦	川村哲也	川西勇夫	吉川和夫	菊池正郎	木村秀志	
喜多創平	北原重信	清常素子	国分利敬	黒岩浩一	久佐賀義光	前田邦利	
前田直明	増田孝次郎	松井清治	松岡壽夫	道廣健吾	三浦規良	宮内貴正	
溝渕弘也	森和重	森松直毅	村瀬和男	長嶋昭美	永田明司	中島隆一	
中村紀雄	中西篤行	中西孝之	中野英俊	棗田良仁	中園智子	新田耕治	
西内顕	信森勝治	野口順一	野々口忠男	小川晴久	小口良喜	小倉幸雄	
大平良治	大久保徳衛	大道豊彦	太田宏	岡田一茂	岡田恵二郎	岡本靖彦	
表尚志	大西稔男	小沼正博	大矢徹郎	坂井啓治	佐良木忠男	佐藤徹	
沢田修吾	関晃典	関統造	七字道彦	篠原勉	四宮純一	白土茂雄	
園田雅敏	須賀徹	鈴木絃司	鈴木孝尚	高廣次郎	高梨和彦	宝田登	
高嶋宏臣	高田惟有	高津治夫	鷹津俊一	田村耕一郎	田邊正明	田中功	
田中剛	種村茂明	立石揚志	刀狩館貞郎	鳥取滋治郎	戸谷襄	坪井哲夫	
土屋英五	内田英三	上田博景	上田勲	上森義美	上野英男	上野和郎	
漆崎隆司	宇佐見和彦	若杉正實	渡辺宏	山田信一	山岸正雄	山本一良	
山中栄三郎	矢野清一	横溝肇	横山泰雄	吉田絃	吉田益坦	湯浅康生	
以上146名							

7月末現在の登録者 1,246人